

ともにも

Dear our partners.
Dear our friends.

【校訓】
やさしく
かしこく
すこやかに

平成27年10月5日
第21号

天草市立久玉小学校
学校通信
編集代表
校長 本田勝則

対話から始まる授業づくり

9月に入って、2年生、3年生の研究授業がありました。2年生、3年生、そして先生方のがんばりを見ることができました。そしてその中で、子どもたちが確実に育っていることを実感することができました。

このように、学校では、校内研修と言って、私たち職員で、授業のあり方の研修をする時間があります。すべてはより子どもたちの学習する力を向上させるためには、どのような取組を取り入れたらよいかと考える時間です。

今年、久玉小の研究の

テーマは「対話」です。通常授業では、その時間の学習の課題に対し、まず一人で取り組む、そしてそのあとで全体での学習の練り上げを行います。

久玉小では、この2つの学習活動の間に、子ども同士「対話」を仕組めます。それはペアであったり、グループであったりするので、その活動をおして全体での練り上げをより充実したものにしようという研究をしています。

2年生も、3年生も、一生懸命授業に取り組んでいる姿がとても印象的でした。



「子どもが家庭で学んだことは生涯生き続ける」と言われます。以前参加した講演会では、望ましい子どもに育てるために大事にしたいこととして、次のことを話されました。

「子どもは、家族の中で交わされる『ことば』の温かさと確かさの中で賢く育つ」

そのためには、親子の対話を大切にし、子どもとそその日のことを話し合う時間を必ずつくる。

そして、大切なことは、子ども

たとえば、学習を進めるうえで大切な約束を教室に掲示し、視覚的に確認できるようにしたり、ペア学習で、お互いの意見を発表したあとで、お互いのいいところを認め合うコメントを入れたり、とさまざまな工夫が試みられました。それらの取組に対し、子どもたちがその期待にこたえている姿がありました。先生と子どもたちがそういう信頼関係につながっていることをとてもうれしく感じました。

学校にはいろいろなチャレンジのチャンスがあります。教室で子どもたちは実にさまざまなことにチャレンジをしています。学校はチャレンジをする場です。久玉小には、教室以外の場所にもチャレンジがあります。

例えば、「今月の詩」、暗唱できるようになったら、職員室でのチャレンジをします。

久玉版SASUKEもそうです。チャレンジして、できるようになったことを見届けてくれた人と一緒に報告に来ます。2つに共通しているのは、いずれも職員室に来ることもチャレンジになるということです。緊張感の中に、きちんとあ

CHALLENGE! SKILL UP! チャレンジ力をつける

いざつをして中に入り、自分のがんばりを発表するということも大事な経験になります。

久玉版SASUKEは課題クリアのランクがあり、「神」「超神」ランクは掲示板に名前が貼られます。ステータスです。

現在、「神」以上に認定されているのは、57人、すごいですね。課題は全年共通ですので、低学年では難しいものも多いですが、できるものもあります。チャレンジすることに大きな意味があります。休日にはぜひ親子でチャレンジしてください。

だれの言葉でしょう？

私の母は小学校の先生で忙しくて、面倒をみてくれていた祖母からいつも繰り返して、人のためになることを考えなさいと言われていました。

研究者になっていろいろとやりたいこともあったが、何をやるかを決める際にはどちらが人のためになるかという考えを基本にしていました。

(答えはこの通信の左下です)

1935年に山梨県韮崎市の農家の長男として生まれ、家業を手伝った。学生時代はスポーツに明け暮れ、大学進学は眼中になかったが、父からの勉強する気があるなら大学に行かせてやるとの一言で、受験勉強に目覚める。山梨大学文学部自然科学科に進み、化学を専攻した。卒業後は東京都立墨田工業高校校舎間の教師になるも、「話し下手だったし、山梨の方が笑われるのがいやだった」と振り返る。



大団円

～校長室より～



「対話から始まる子育て」
子どもの心の安定を保つために

「子どもが家庭で学んだことは生涯生き続ける」と言われます。以前参加した講演会では、望ましい子どもに育てるために大事にしたいこととして、次のことを話されました。

「子どもは、家族の中で交わされる『ことば』の温かさと確かさの中で賢く育つ」

そのためには、親子の対話を大切にし、子どもとそその日のことを話し合う時間を必ずつくる。

そして、大切なことは、子ども

の話をもっと「待つ」、じっくり「聴く」、内容をしっかりと「受けとめる」こと、だそうです。

また、脳科学者の川島隆太さんは、「子どもの脳を健全に発達させる親子のふれあい方」と題する講演で、

「親子の心のきずなを強くするためには、親子が時間と空間を共有し、顔と顔、目と目を合わせて過ごすことが大切だ」と指摘されています。先に紹介した講演とほぼ似通った内容と想われます。

子育て世代の保護者の皆様は、職場でも地域諸団体の中でも期待され、忙しい世代ですが、お忙し

い中でも親子の会話と一緒に食事する等、お子様とのふれあいを大切になさっていることと思います。

親子のふれあいは、お子様の心の安定を増すとともに、ひいては他人への安全・安心の醸成にもつながります。人とのコミュニケーションがうまくいかなかったり、自分に注意を向けられるために反抗的になったり、兄弟(姉妹)や友だちに乱暴な言葉やたたいたりする等の行動が目につく場合は、(親子のふれあい不足かも?)とお子様とのふれあい・対話が足りていないかどうか振り返ることも必要ではないでしょうか。

今日は本田校長先生が教員になって13335日目
そして、平成28年3月31日は13513日目

くたまたみついたあ!!

久玉っ子の日記から、保護者の皆様のおたよりから、久玉小の「いま」を紹介します。前回紹介した学校開放デーのお手紙の続きです。感謝です!

「学習面もいろいろ工夫されてよかったです。いろいろな掲示コーナーもきれいにいろいろ楽しめました。ありがとうございました。」

「普段見れない姿が見れてよかったです。家とは違い、集中して勉強していたのが驚いた。1年生がみんな元気がよくて気持ちがよかったです。」

「ひんぱんに学校開放をしていただき、学校での子どもの様子がわかり、とてもよかったです。」

「子どもたちが生き生きしているようでうれしい限りです。先生方の工夫と努力があったことで、よくわかりました。」

「1年生の社会の授業。昔のことを想像や予想でまず授業を展開して授業でした。子どもたちのユーモアあふれる発想や発表内容に思わずははえんてしまつたくらい楽しい授業でした。子どもたち、それぞれが思ったこと、考えたことをはっきりと堂々と言えるクラスの環境にも感じました。おもしろおかしく楽しい授業でした。」

(責任者 野中・柴田) (編集 野中) (印刷 野中)

ホームページならカラーで見ることができます!
URLは、 <http://es.higo.ed.jp/kutamaes/>